樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

2024(R６).３.25
第１５３号
樋爪館懇話会

事務局　〒028-3310 紫波町日詰駅前1-10-2　赤石公民館内　Tel 019-676-3999

紫波町発掘調査報告会が開催　町教委主催

歴史関連団体が活動報告も行う

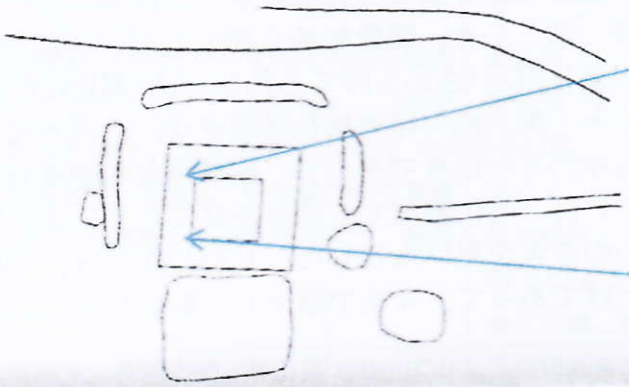
紫波町教育委員会が行った埋蔵文化財発掘調査の成果を、広く町民にお知られせするとともに文化財保護の観点から、３月３日(日)、町情報交流館大スタジオでその報告会が約５０名出席の下に開催された。また、紫波町文化財関係団体協議会を構成している１３組織の活動報告も併せて行われた。

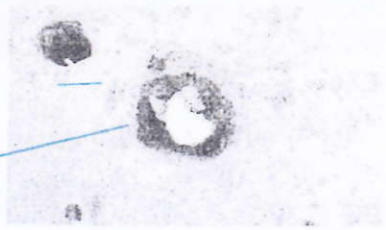
発掘調査報告は、令和５年度において、桜町地区の本町川原(もとまちかわら)遺跡、田頭(たがしら)Ⅲ遺跡、才土地(さいとち)遺跡の３遺跡であり、いずれも宅地造成工事に伴う緊急発掘調査であり、町教委の主任文化財専門員がスライドのより説明された。

特にめぼしいのは、東北本線喜代治踏切の東方に位置する田頭Ⅲ遺跡の竪穴建物跡が発見され、その埋土中から火山灰（十和田ａ：十和田火山の大噴火 西暦915年）が検出された。このことから平安時代(10世紀頃)の遺跡であることがわかった。

町教委の発掘調査報告後に、文化財関係団体協議会長の石幡信会長が資料やスライドを用いて、構成１３団体の沿革や活動内容を報告された。（Ｐ４に樋爪館懇話会の内容掲載）

才土地遺跡の遺構で今回検出された四面庇掘立柱建物跡は、１間×1間と狭く住まいとしての機能はないと思われ、小堂の可能性が高いと考えられる。(配付資料より、一部加工)





掘立柱建物の礎石出土状況

才土地遺跡の遺構(四面庇掘立柱建物跡)

≪≪４月行事予定のお知らせ≫≫

４月 ２１日 （日曜日）	令和６年度 **定期総会**	時間：午後１時３０分～２時１５分 場所：赤石公民館 講堂 提出議案 １.令和５年度事業報告および収支決算について ２.令和６年度事業計画および収支予算について
	第１４９回 **月例発表会**	時間：午後２時３０分～４時００分 場所：赤石公民館 講堂 発表者 平 井 和 夫 テーマ 越前斯波氏 斯波郷長(さとなが)、越前国鞍谷(くらたに)家相続

令和６年３月２０日開催した月例発表会において、発表者が用いました資料から抜粋し、さらに文章は縮めて、掲載しておりますのでご理解とご了承願います。

宇部真澄の「陸奥話記を読む⑥」

（３６）貞任らの首級、京に入る

（康平六年）二月十六日に、将軍は貞任、経清、重任の三首級を朝廷に献じた。京都人々はすばらしい見ものと評した。見物の人の牛車と牛車がぶつかり合い、観衆は肩と肩が触れ合うほどの人出であった。

入京に先だって、首級を献上する使者は、近江の国甲賀郡に着いて、首級を開き三首級を出して、その髻を洗い、櫛で梳かせた。首桶を担いできた者というのは貞任で従者の降伏兵であった。彼らは主の髪を梳る櫛がないと訴えた。使者は「お前らが髪を梳いでいる櫛があるだろう。それで首級の髪を梳けばよかろう」と言った。首桶を担いできた者は、そこで私用の櫛を取り出して主の髪を整えた。が、涙を流し咽び泣いて嘆いた。「わたしの櫛で恐れ多くも殿の髪を梳こうとは考えもしなかったものを」と。その悲哀の様子は見るに忍びないものがであった。観衆は皆同情の涙を流した。

（３７）勲功の武臣への行賞

同じ二月二十五日、除目の時、殊勲の功績を賞して、頼義朝臣に官爵を授けて正四位下伊予守とした。太郎義家に従五位下出羽守を与えた。次郎義綱を右衛門尉に任じた。武則を従五位下鎮守府将軍とした。三首級を献上する使者を務めた藤原季俊を右馬允に任じた。物部長瀬を陸奥大目とした。

（３８）評

(漢の国)東北辺境に住む戎や狄の勢力が増大であれば、中華に君臨する政府も制圧することができない。こういうわけで、漢王朝の高祖皇帝は、平城で匈奴に包囲されて進退に窮し、高祖に先立たれた呂后は匈奴王、冒頓の無礼な言葉を忍ばねばならなかった。

我が王朝は上古にしばしば大事を起こして、国費を多く費やしたけれども、東夷は戦いに大敗したことはない。坂面伝母礼麻呂(さかものてもれまろ)は朝廷に賊夷の帰降を許されんことを願い出て、ことごとく奥六郡の諸部族を帰服させ、ただ万代に語り継ぐ栄誉を立てた。彼こそは守護神毘沙門天の化身であって、世に稀な名勝軍であった。

それ以後、二百年の間に、あるいは一戦に勝利する功名を立てたり、あるいは智謀に優れた能臣が帰順させようと六つの奇策を用いたりした。しかしながら、それらはただ一部族一集落の夷を服従させただけであって、今まで華々しく兵威しめし。おしなべて諸夷を処罰したことはなかった。

しかし頼義朝臣は自ら矢面に立って、蝦夷の武威を粉砕したのである。世に卓越する殊勲ではないか。

（３９）自序

今、陸奥の国府が上申した「国解」の文から抄録し、都の多くの人々が語る話しを拾い集めて、これを一巻の書に書き記した。しかし私は陸奥の国から遠く千里の地に居るのだから、さだめし事実と異なることも多かろう。事実を知っている人が正してくれることを願う次第である。　新編日本古典文学全集４１及び陸奥話記現代語訳(西野耕三)

陸奥話記は未だその記す者を知らず。蓋し古代の管・江博士の徒の記せし所か。東監に言う。「承元四年(1210)庚午十一月二十三日丁未、奥州十二年合戦絵巻、京都よりこれを召し下さる。今日ご覧ず。仲業、仰せによりてその詞を詠み申す　云々」と。

その前九年絵なるもの、この話記にもとづき、もってこれを画きしものか。

明和七年(１７７０)庚寅春三月二十四日

東都のこじゅう隊士 伊勢平蔵貞丈写す

宮良男の「日本の仏教㉔曹洞宗(4)

曹洞宗の主な寺院（2）

	山号	寺院名	御本尊	所在地	創建	開山	特記
4	萬松山	泉岳寺	釈迦如来	東京都高輪	1612年	門庵宗関	源の泉、海岳に溢るる 曹洞宗江戸三ヵ寺・関三刹(関府六ヵ寺)、外桜田から高輪へ,赤穂義士・浅野匠頭長矩の墓所
5	補陀山	長谷寺	釈迦如来	東京都表参道	1598年	門庵宗関	永平寺東京別院、麻布観音(十一面観音菩薩) 長谷式(錫杖、右足前)、20名の雲水
6	万長山	高岩寺	延命地蔵菩薩	東京都巣鴨	1596年	扶嶽太助	1891年上野下谷車坂から巣鴨に 「地蔵尊印行の礼」(とげぬき地蔵)縁日4日
7	諸嶽山	総持寺	釈迦如来	神奈川県	1911年	瑩山	「師檀和合」(内なる師僧、外なる檀越の和合
8	大雄山	最乗寺	釈迦如来	神奈川県足柄	1394年	慧明	相模房道了(修験道満位の行者妙覚＝ 白狐に誇った大天狗＝道了尊、天狗は曹洞宗僧の侍者)了庵が 1411年に没すると天狗になり昇天する **大雄山最乗寺⇒**
9	福地山	修善寺	大日如来	静岡県	807年	杲隣	真言宗→臨済宗(蘭渓道隆)→1489年曹洞宗(隆渓) 独鈷の湯(修禅寺温泉)
10	三島山	法華寺	阿弥陀如来	静岡県三島市	白鳳時代	智鳳	法相宗大興寺→華厳宗代用国分尼寺・法華寺→807年竹林寺を吸収して真言宗→1489年曹洞宗 嘗て三島神社別当
11	奉安殿	護国院	釈迦如来	愛知県名古屋市	1821年	瑞岡珍牛	慶雲軒、1958年永平寺名古屋別院 尾張徳川家の祈願所
12	黄梅山	正法寺	阿弥陀如来	愛知県	1903年	水野常倫が開山、愛知専門尼僧堂	
13	円福山	妙厳寺	千手観音菩薩	愛知県豊川市	1441年	東海義易	正式名：円福山豊川閣妙厳寺：日本三大稲荷 豊川稲荷＝叱枳尼天(白狐に誇った霊神) 縁日22日、1876年赤坂に豊川稲荷別院 他に札幌、横須賀、大阪、福岡
14	高岡山	瑞龍寺	*釈迦如来*	富山県	1645年	広山怨陽	③前田利常が利長の菩提弔う、七堂伽藍(中国万寿寺を模す) 瑞龍寺伽藍配置図 瑞龍寺伽藍配置 禅宗七堂伽藍人体表相図 **高岡山瑞龍寺(配付資料より転写)**

紫波町文化財関係団体が報告した樋爪館懇話会の団体沿革や活動内容を紹介します。

○ 団体沿革

紫波町教育委員会が推奨した地区創造会議から発展し「赤石地区ひづめ館懇話会」と称して平成２１年７月１日設立。　その後、会員が赤石地区のみならず町外まで広がりのため「ひづめ館懇話会」に改称。 さらに全国の樋爪姓の方の加入等により令和２年４月１日「ひづめ」を漢字に改め「樋爪館懇話会」とす。

○ 活動内容（令和５年度実施事業）

1. 月例発表会の開催

毎月第三水曜日、赤石公民館において開催。
会員自らが文献・書籍や現地踏査等により、調査研究した結果について、印刷資料やスライドを用いて発表。

2. 関係資料集の発行

樋爪館関係資料集 第１３号を令和５年１２月に発行。
内容は、前年度（令和４年度）の月例発表会の資料から集録編集し、外部印刷で１００部、仕様Ａ４判サイズ

↑ 樋爪館関係資料集

3. 定期講演会の開催

年２回、赤石公民館において外部講師を招聘し、平泉や樋爪館等に係わる講演会の開催。

６月１１日（日）第２９回定期講演会
演題「南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡について」
発掘調査報告
講師 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
文化財専門員村田　淳　氏

１２月３日（日 第３０回定期講演会
演題「戦国期の斯波御所と高水寺城」
講師 花巻市教育員会
文化財専門官 室野 秀文 氏

↑北条館跡の平安末期の溝と遺物出土状況

4. 遺跡案内人活動の実施

（１）案内所開設

五郎沼古代ハス見学者へのボランティアガイド。７月１５日から１７日の３日間計画したが、雨のため最終日の１日のみ実施（当日の来場者３９０人）

（２）出前講座（協力事業）

・紫波第一中学校１学年 ７月１９日（水）
コース別」２３名現地案内
「総合的な学習」紫波の歴史を学ぶ
【樋爪館跡周辺の歴史について】

・赤石小学校６年生全員 ９月１３日（水）
紫波町の史跡現地案内
【樋爪館跡・五郎沼周辺遺跡】

・赤石小学校６年生全員 ９月２７日（水）
紫波町の史跡現地案内
【陣ケ岡史跡・高水寺城跡】

↑赤石小学校 紫波町史跡現地案内(9/27)